

宣教の声
The Voice of Mission



東スイス、アッペンツェラーランドのエックリにて

みことばが導くままに

"御国が来ますように。みこころが天で行われるように、
地でも行われますように。"

マタイの福音書 6章 10節

ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎



「うっかりミス」という言葉があります。山登りで「この道はよく知っているから」と言って注意事項を怠ると(自分では大丈夫と思っているが)、結果的に不慮の事故に巻き込まれてしまうことがあります。自動車の運転でも、そうですね。自分ではよく知っているからと言って、「うっかりミス」をすることがあります。私たちの人生でも同じことが言えましょう。多くの人が自分勝手に行動し、神のことばに従わず、自分の道を探します。「もっと早く幸せになる道はないか」、「一度ぐらいは守らなくても、気分転換してもいいだろう」などと思い、みことば以外の道に進んでしまうのです。

人間というものは、危機が訪れると、さまざまな手段を考え、どれが最善であるか秤にかけるものです。しかし神が願っておられるのは、何が最善の選択であるかを計算するのではなく、シンプルな従順です。神のみことばの前で、みことばを信じて従うとき、神は祝福(幸福、恵み、平和)を与えてくださいます。私たちの選択肢は2つに

一つです。①この道、あの道とさまよい、悩みながら生きるか、②単純にみことばの導くままに進んでいくかです。選択の岐路に立つことがあれば、ためらうことなく、みことばに従いましょう。神は私たちのたましいに対し、最後まで責任をとってくださいます。いかがでしょうか。神のみこころを悟りたいと願っているでしょうか。あるいは、神のみこころを知りながら、うやむやにして従わないでしょうか。大切なことは、神のみこころの道を選ぶことです。

そこで、大切なことを覚えてください。神に教えて欲しいと願う前に、そのみこころに従う決意が必要です。英語で“Are you ready?”(備えはありますか。準備は宜しいですか)というフレーズがありますね。私たちは、どんな心の備えをしているのでしょうか。今日、私たちは「うっかりミス」を犯さないために心引き締めて歩みましょう。そして「御国が来ますように。みこころが天で行われるように、地でも行われますように。」と祈りましょう。神はグッドでもベターでもなく、ベストの道を備えてくださっています。

JCFN35年

「ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ・ネットワーク」(JCFN)は、1990年冬、イリノイ州で開催されたアーバナ宣教大会に参加した留学生を中心に、彼らが帰国前後に直面するさまざまな必要や課題に応えるために始まりました。「帰国後、どこの教会に行けばよいかわからない」「日本語で祈れない」「家族や身近にクリスチャンがない」「日本語で信仰生活を送ることに抵抗がある」…そうした切実な声、働きの出発点でした。

この35年余り、主の恵みと憐れみによってJCFNは、「海外から日本にクリスチャンとして帰国する人々が、世界宣教のために整えられること」を目的に、教会や諸団体と協力しながらネットワークを築いてきました。帰国前の備え、帰国後のケアのためのカンファレンス開催、リーダーシップトレーニングやリソース提供を通して、多くの帰国者が信仰の歩みを続ける支えとなってきました。

コロナ禍を経て海外滞在者数は回復し、現在も短期・長期を含め130万人以上の日本人が海外で生活しています。そして今も変わらず、彼らは福音に対して非常にオープンです。異文化の中で自分の限界に直面し、これまでの「当たり前」や偏見から距離を置くことで、人生や信仰について深く考える時間が与えられています。そのような柔らかな心を持つ人々のもとに、イエス・キリストの愛を伝えるクリスチャンが遣わされ、福音に触れるのです。



キャンプ参加者の青年たち

イクイッパー・コンファレンス

JCFNは、帰国者を整える働きを中心にしていますが、同時に次世代を育てることも大切にしています。イクイッパー・コンファレンス、通称ECは、日本国外でクリスチャンとなり、将来日本へ帰国する方々のための帰国準備リトリートとして始められました。しかし近年、大きな祝福として中高生の参加が増え、EC25は中高生に特化したキャンプとしては二回目の開催となりました。

12月29日から1月1日までの三泊四日、ロサンゼルス近郊にある会場に、82名の中高生、55名のユースリーダー、そして多くの大人が、日本、カナダ、アメリカ各地から集いました。参加者の多くが、「サードカルチャーキッズ」(二つ以上の文化の狭間で育ち、第三文化の中に自分の居場所を見いだしていく子どもたち)ということもあり、キャンプはすべてバイリンガルで行われ、メッセージやバイブルスタディー、ゲームの説明に至るまで通訳が入りました。多様な言語・

文化背景を持つ参加者にとって、大きな安心と安全のある環境となりました。

初日は緊張していたユースたちも、1日目の夜にはすっかり打ち解け、ゲームに笑い、賛美を心から楽しんでいました。肩を組んで主を賛美する姿は、とても美しいものでした。プログラムは、朝のデボーションを兼ねたインダクティブ・バイブルスタディーから始まります。午後はゲームやスポーツを楽しむ、自由時間にはユースとリーダーが一对一で話す「ワン・オン・ワン」の時間が持たれました。グループでは話しにくい心の思いを、リーダーが丁寧に聴く大切な時間です。

また、家族関係、聖書の読み方、恋愛、伝道といったテーマのワークショップも行われ、終了後も講師に質問するユースの姿が印象的でした。

最終日には、ユースが証しをする時間が持たれました。強がるのではなく主を信頼すること、自分の弱さを隠さず主に委ねてよいこと、そして信仰の歩みは自分の力ではなく、主がなしてくださるのだということをかち合われました。招きの時間には、信仰告白や受洗、将来の献身、そして「今、主に用いられたい」という応答に、多くのユースが手を挙げていました。本当に感謝な光景でした。

ユースミニストリーは、ユースリーダーがいてこそ成り立つ働きです。このバイリンガル、バイカルチャーのユースとリーダーこそが、今すでに与えられている日本宣教の担い手であると、私たちは確信しています。もっとも、ユースとユースリーダーたちの歩みは必ずしも日本への帰国に限定されてはいません。アメリカに残り、大学で日本からの留学生に仕える者、社会人となって日本語教会や日本人クリスチャンの交わりを支える者も起こされています。彼らは、自らのバイリンガル、バイカルチャーの経験を生かし、日本から来た人々の不安や孤独に深く共感しながら仕えることのできる存在です。JCFNは、帰国するか否かにかかわらず、神様が置かれた場所で日本と日本人に仕えることを、日本宣教の大切な一部として捉えるように導かれています。

帰国者ミニストリーを中心に始まったJCFNの働きを、神がこれからもどのように導いてくださるのか、楽しみで仕方がありません。

(つづく)

伝道、プレゼントにもおすすめです。

聖書の集い・連続メッセージ
「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

その時、わがたましいは歌う

主幹 黒田 禎一郎

多くの人たちに親しまれている讃美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。

第1巻～第10巻 刊行 中綴じB6サイズ ¥500(税別)

ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。

"牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで
思いやりなさい。また、自分も肉体を持っているのですから、
虐げられている人々を思いやりなさい。"

ヘブル人への手紙 13章3節

今日も、キリストの福音は未伝地帯に届けられています。それはみことばに忠実な聖徒たちによって、タジキスタンでも行われています。



大自然豊かなタジキスタン

中央アジア内陸国の3分の2以上は、高山地帯で構成されています。タジキスタンは北にキルギス、東に中国、南にアフガニスタン、西にウズベキスタンと国境を接しています。アフガニスタンとの国境は、約1,400キロメートルにわたって延びています。そこで問題となっていることは、アフガニスタンから国境を越えて密かに麻薬がタジキスタンに密輸され、さらにそこから他の国々へと運ばれている現実です。1992年から1997年にかけて、タジキスタンは壊滅的な内戦に苦しみ、推定では5万人から14万人の命が失われ、インフラ設備が破壊されました。この内戦は経済発展にも大きな影響を与えたため、今日のタジキスタンは旧CIS諸国の中で最も貧しい国となっています。次は、現地の主の働き人からのレポートです。

聖書を信じるクリスチャン数は人口の0.005%

人口1千80万のタジキスタンは、比較的小さな国です。他の中央アジア諸国と同様に、公式にはイスラム国家ではありませんが、事実上イスラム教が支配しています。人口の約90%がムスリムですが、国内には約500人の聖書を信じるクリスチャンが暮らしています。少数の生きたクリスチャンが、そこでキリストの光を放ち幸いな証しをしています。

現在、タジキスタンの聖徒たち、次の使徒パウロのような心境です。「私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝しています。あなたがたすべてのために祈るたびに、いつも喜びをもって祈り、あなたがたが最初の日から今日まで、福音を伝えることにともに携わってきたことを感謝しています。」(ピリピ1:3-5)パウロは、キリスト教会に対して支援は単なる人間的な援助だけではなく、神の働きにおける霊的な協力であることを思い起こさせています。西側の聖徒が私たちのために「とりなしの祈り」をしてくださるとき、私たちの霊的な戦いを共に戦ってくださっていると信じています。一つ一つの献げ物は、永遠への投資です。

西側の兄弟姉妹が私たちの働きを祈り支援くださることは、タジキスタンでイエス・キリストの実に共に与っていることと言えましょう。人には小さく取るに足りないと思えることでも神の目には大きな働きです。この地上のすべてのものはいつの日か過ぎ去りますが、主イエス・キリストの御名においてなされた働きは、永遠に残り続けます。

困難にもかかわらず活動を続ける

タジキスタンにおいて、イエス・キリストへ生ける信仰を保持することは容易なことではありません。私たちの知る限りでは、国全体で聖書に忠実なクリスチャン数は約500人です。私たちのキリスト教会の群れには29の教会と、家の集会(ホームグループ)が属しています。その内、政府から公式認可を受けているのはわずか5つの教会のみです。他はすべて地下教会とみなされています。何か困難な事が生じるたびに、未登録の教会(集会)が最も大きな影響を受けています。しかし、それでもキリストの教会は堅固に生き続けて、主イエス・キリストに忠実に仕えています。私たちは、伝道(周囲へ福音の働きかけ)と、聖徒への教育(弟子訓練)に重点を置いています。



聖書の勉強会

タジキスタンでは、キリストの福音を公けに語ること(宣教)は禁止されています。教会の会堂施設内での説教、伝道、教育は許されています。しかし神の恵みによって、キリストの福音はこうした壁を突き破り、信仰を持たない人々に届いています。大規模な伝道活動は、もちろん基本的に禁止されていますので、個人伝道を実践しています。私たちは家族訪問し彼らと話し合い、彼らが心を開いてくだされば、神のみことばを分かち合っています。



密かに開かれる家庭集会

標高4,000メートルでの福音

私たちは郊外の山岳遠隔地に住む人々にも、キリストの福音を届けています。人々が住む多くの場所は、数千メートルの高地でアクセスが非常に困難な地帯です。そのため、様々な困難に直面しますが、神に感謝しています。人間的には到達不可能な人々にも、キリストの福音を届けることが可能となります。この働きの背後には、皆様のお祈りと支援があることを覚えます。西側の聖徒たちの援助によって、福音は標高4,000メートル以上のパミール高原にまで届いています。私たちはすでに2回の伝道活動を、そこで行うことができました。そして、これまでにキリストの福音を一度も聞いたことのなかった人々に、キリストの福音を届けることができました。

(つづく)

豹変

北朝鮮全土を襲った大量餓死によって全てが狂わされ、ナム・ウンジュは生きる術も無く、もはや頼れる家族も、帰る家もありませんでした。娘盛りであった20代の彼女は、その若さゆえの輝きも失い、薄汚れた物乞いとして、ただ町をうろつくしかありませんでした。そんなある日、同じホームレス仲間の友人から、中国に渡り一週間だけ畑の草むしりをすれば、結構お金が稼げるという話を聞きました。その話に乗ったウンジュは、雨が降りしきる真夜中に、2人のブローカーの男たちと見知らぬ若い女性たち4人と互いに腕を組み、鴨緑江を渡りました。彼らは川を渡り切り、濡れた体で何時間も夜明けを待ち、東の空が白む頃、ブローカーたちは朝鮮族の老夫婦の家に女性たち4人を連れて行きました。親切なその老夫婦は、彼女たちの服を着替えさせ、茹でたジャガイモをお腹いっぱい食べさせてくれました。夫婦は彼女たちをかくまい守るためだと、4人をヤギ小屋に閉じ込めましたが、食べ物を与え続けてくれて三日が経ちました。すぐにでもお金を稼ぎたい彼女たちは、老夫婦に何か仕事をさせて欲しいと訴えると、それまで優しくした彼らの表情が豹変しました。「お前たちは1人100元(約2000円)で、ワシらが買った。金はあのブローカーたちに渡して、奴らはさっさと北朝鮮に帰ったさ。」

戻された生命

彼女たちの中で最も年若い17歳の少女が、老夫婦により60代の漢族の男に売られたことを皮切りに、若い頃に他の2人も売られ、ウンジュだけが残されました。怯えた彼女は隙を見て脱出し、逃げ込んだ或る家の住人から衝撃の事実を聞きました。一今日、あの老夫婦はあなたを漢族の一家に転売し、あなたはその家族全員から輪姦されることになる一と。老夫婦が目を光らせて、彼女を町中で探し始めていることを知ると、ウンジュは脱兎の如く町を抜け、遠くハルビンまで逃げました。祖国にも帰れず、異国でも行く当ての無い彼女は、再びあちこちで売られ、暴行され、逃げては追い回され、心身共に休まる日は1日たりともありませんでした。身も心も魂も殺され、自分は傷だらけになるために生まれたに過ぎないウンジュにとって生きることは、もはや悪夢でしかありませんでした。



韓国との国境を見張る監視棟

彼女は二度も首に縄をかけ、生命を捨てようとしたましたが、神様はその度に彼女の生命をこの世に戻されました。生きる屍のようなウンジュでしたが、韓国まで逃げれば、国籍を得ることができること知り、彼女はベトナム経由で韓国を目指しました。その途中で、韓国人宣教師が世話をしている脱北者安息所に入ることができました。そこで行われる礼拝と聖書通読は、ウンジュには儀式にしか思えず、傷だらけで硬くなった

彼女の魂に、みことばは何一つ届きませんでした。その数ヶ月後、ウンジュは大韓民国に到着しました。

誰か私を抱きしめて

この国では、誰からも危害を加えられることも、追われることもなく、ようやく彼女は静かな日常を得ることができました。しかし、その静けさは彼女を押し潰すような、深い孤独感となりました。そんなウンジュに優しく声をかけてくれたのは、街で出会った異端教会の伝道師でした。ハナ院の同期が異端教会には気をつけるように忠告をしてくれたものの、生まれて初めて人から気にかけてられ、優しく扱われた彼女にとって、その異端教会の人々が心の拠りどころとなりました。しかし、ウンジュは程なくして異端教会から離れ、その影響ゆえに、彼女はしばらく家から出ることもできず、更なる孤独感が彼女を覆いました。ある日、彼女が窓の外に目をやると、すぐ近くに十字架が見え、彼女はその十字架の建物を探しあて、そこは町の小さなメソジスト教会でした。ウンジュは思い切って、その教会の中に入って見たものの、やっぱり出ようと思わず飛び出した出入口で、入って来た牧師らしき男性と出会いました。彼女は牧師を見て、思わず声を絞り出し「私は脱北者です!」と叫びました。彼女の声は、誰かに関心を示して欲しい、抱きしめて欲しいと魂の叫びに聞こえ、牧師や周りにいた勧士たちは思わず、すすり泣く彼女をしっかりと抱きとめました。

傷だらけのイエス様

ウンジュはこの教会で、傷だらけの罪人である自分の姿を発見しました。生まれ育った国家や誰かのせいだけで、自分はこの世にも傷を受けただけではなく、自分自身の罪こそが、最も自分を傷つけていました。イエス様が十字架にかけられた時、その御体にあった無数の深い傷跡は、私たち全人類の罪によって全て刻まれた傷でした。イエス様御自身は全く罪を犯されませんでした。ただ全ての人間の罪による傷をその身に受けるために、この世に生まれて下さいました。この真理を知り、悔い改めたウンジュの心に、天のお父様は「わたしの愛する娘よ、お前をずっと待っていた」と両手を広げ、彼女はありのままの姿で、父の胸に飛び込みました。

イエス様と共に人生をやり直したウンジュはその後、メソジスト神学大学に進学し、伝道師となりました。彼女は結婚して娘を授かり、現在は神学大学に通う21歳になった娘と一緒に神に仕える働きをしています。彼女たちはその都市に住む約400人の脱北者たちの一人ひとりに、神の愛を伝える使命に生きています。ウンジュはもはや、自分の過去の痛みから目を離し、イエス様の愛の証であるカルバリの十字架を見上げるようになりました。傷だらけだったこの魂が、高らかに神の愛を讃えるその歌声に、天の軍勢はどれだけの歓声を上げているでしょうか。

しかし、彼は、私たちのそむきのために刺し通され、
私たちの咎のために砕かれた。 (イザヤ 53:5)

(名前は全て仮名)(つづく)

World View

米 国

米国政府の移民政策に抗議するデモで、1月23日、ミネソタ州の「ミネアポリス・セントポール国際空港」で、約100人の聖職者が逮捕されました。これは米誌ナショナル・カトリック・リポーターの報告です。様々な宗派の聖職者らが、増加する強制送還便に抗議しました。空港当局の広報担当者ジェフ・リー氏によると、彼らは短時間で釈放されましたが、デモ参加者らは住居侵入などの罪で刑事告発を受けました。デモ参加者であったマリア・ファーンズ・トルゴード牧師は、警察から立ち去るよう求められたと述べています。しかし、彼女と他の参加者は自分たちの教区メンバーを含む移民との連帯を示すため、意図的にその場に留まりました。これらの人々は自宅を離れることを恐れています。この抗議活動は、ミネソタ州の状況に対する反応である。移民当局ICEの職員による2件の暴力的な死亡事件の後、状況は悪化していました。どうぞ、お祈りください。



空港で祈りを捧げる聖職者たち

イ ラ ン

世界中から非難の声が飛び交っていますが、イラン政権がデモ参加者に対して行った暴力は、人道の域をはるかに超えています。イランでは今年の初めから、大規模抗議活動において数千人の市民が殺害され、1万人以上が拘束されたと言われます。イラン政権はインターネットを遮断したため、情報の流れが制限されてしまいました。ドイツの福音主義教会(EKBO)のクリスティアン・シュテープライン司教は、「大規模な国家による威嚇と最も残忍な暴力」について声明を出しました。デモ参加者について、彼らは「国家テロに立ち向かう、多様な背景と信念、そして宗教を持つ人々である。彼らは、人間として持つべき基本的人権のために街頭に出ている人々である。彼らの平和と自由への渴望は、威嚇、暴力、拷問、殺人への恐怖よりも明らかに大きなものである。私はキリスト者として知っている。神は権力者の側ではなく、声を奪われた人々の側に立っておられる。人々が攻撃され、拷問され、殺害される場所では、神もまた攻撃され、冒瀆されるのである」。それゆえ、この出来事は福音主義教会を無関心にさせることはありません。シュテープライン司教は、政治的にも、精神的にも、人道的にも、イランの人々のために「執り成しの祈り」を呼びかけています。彼はまた、ドイツ福音主義教会評議会(EKD)の難民問題担当者でもあります。人口約8,900万人、その約98%がムスリムで、キリスト教徒は約1%です、どうぞ、イランのためにお祈りを願います。



毛布に包まれ遺体となったデモ参加者

ド イ ツ

現在、ドイツで話題となっている課題の一つは「家の教会」の是非についてです。家の教会の導き手で神学者でもあるミカ・クラール師は、次のように語ります。家の教会は、一部のキリスト

教徒にとって、共通のより大きな集会場所を持つ古典的な教会に代わる選択肢として、ますます重要になっています。家の教会支持者は、キリスト教徒の共同体をより個人的なものにする機会があると考えています。批判者は個人主義化への傾向を見えています。では、家の教会は完全な意味での教会なのでしょう？

イエスは、すべての教会(エクレシア)の中心が何であるかを明確に示されました。「二人か三人が、わたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」(マタイ 18:20)と言われました。したがって聖書的には、外的な特徴(集会場所、組織形態など)が、完全な教会と言えるかどうかを決定づけるものではありません。神が聖霊を通して、イエスの名においてご自分の聖徒たちを集め、彼らが主であり救い主として告白するところに、教会が存在するのです。



ミカ・クラール師

外的な形態は本質的なものではありませんが、それは私たちが弟子を作り、バプテスマを授け、教える方法(マタイ 28:18-20)、神のこぼを聞き、交わりに生き、聖餐式を祝い、祈る方法(使徒行伝 2:42)を形作ります。家の教会は、制度や匿名的な知識伝達ではなく、神と他の人々との生きた関係を中心に据えることで、これに対する明確でシンプルな枠組みを提供します。もちろん、家の教会にも健全な実践例と不健全な例があります。しかし基本的には、初代教会時代から今日の世界にある教会に至るまで、家の教会は、個人主義化や聖書の理解の貧困化が表れるところもあります。しかし、聖徒が献身的な礼拝、大胆なキリストの福音宣教、そして聖霊に満たされた交わりと弟子訓練の場なのです。私はこのようなホーム教会を、ドイツにおいてもっと見たいと思っています。

一方、ミュンヘン中部にある福音自由教会のマティアス・ローマン牧師は次のように語ります。キリスト教会の始まりから、多くの地方教会は個人の家で集まりました。これは、会堂の責任者たちがメシアであるイエス・キリストの宣教を拒絶した場合、しばしば他に選択肢がなかったためです。一方、使徒の働き 2章では、エルサレムの教会が神殿で集まっていたことが報告されています。それは教会の規模からして、他に方法がなかったためです(2:41-47)。最終的には、教会がどこで集まるかは重要ではありません。教会が全き教会であるのは、集まる場所ではなく、教会が何をし、どのように構成されるかです。



マティアス・ローマン牧師

宗教改革者たちは、聖書的な教会とはキリストの福音が説教され、礼典(洗礼式と聖餐式)が実践される所であると認識しました。さらに、聖書は教会が複数の長老によって導かれるべきであると教えています。パウロはテスに、クレタの教会でまだ欠けているもの、すなわちすべての町、つまりそれぞれの教会に長老を任命することを整えるよう書いています(テス 1:5)。主が教会に成長を与えてくださる方法によって、個人の家で集まることや、それに応じてより大きな集会場所で集まるのが適切な場合があります。選択の余地がないのは、教会が聖書に従い、正式に任命された指導者を持つことです。個人で活動するグループは、完全な教会ではありません。それは常に補完的なものであるべきで、クリスチャンが実際の教会を離れてはなりません。なぜなら、それは神のみこころではないからです(ヘブル 10:25)。

グリーンランド

グリーングリーンランド司教は、米国トランプ大統領によるグリーンランドを接収するとの脅迫に対し、同地の福音ルーテル教区のパネーラク・シーグスタッド・ムンク司教が反対の意を表明しました。世界キリスト教会協議会(WCC)の声明は、「私たちの未来は、私たちの参加なしに決定されるべきではありません。私たちの言語、文化、祖先、子どもたち、そして未来はここに根ざしています。私たちは人間であり、所有物ではありません。グリーンランドは、単純に購入できる土地ではありません。ここは私たちの故郷であり、売りに出されてはいません。」と述べています。同時に、司教は冷静さを保つよう呼びかけました。祈りは癒しをもたらす意義深いものであると述べました。



ヌーク市の町風景

WCCによれば、世界最大の島であるグリーンランドの約57,000人の住民のうち、95%以上がデンマーク国に属しているのは、ノルウェー系デンマーク人の牧師ハンス・エーゲデ(1686-1758)と関係があります。彼は1721年に島に到着し、1728年にデンマーク王の命を受けて伝道と貿易の拠点を設立しました。彼は教会、捕鯨基地、そして集落を建設し、そこからグリーンランドの首都ヌークが生まれました。先住民族であるイヌイット族のために、彼は「主の祈り」を変更しました。それは「我らの日ごとの糧を今日も与えたまえ」を、「我らの日ごとのアザラシを今日も与えたまえ」としました。1733年、ヘルンフト兄弟団の宣教師たちが、最初に島に到着して伝道拠点を設立しました。そして1900年、すべての住民が洗礼を受けたため、兄弟団はその使命を果たしたと見なしてグリーンランドを去りました。そしてデンマーク伝道団が、その後を引き継いで現在に至っています。

世界の迫害インデクス

世界的宣教団体「オープン・ドアーズ」は、2026年の「世界の迫害インデクス」を発表しました。それによれば、2024年10月1日から2025年9月30日の期間中、世界で約3億8千

800万人のクリスチャンが迫害を受けています。キリスト教徒に対する世界的な迫害は、新たな高レベルに達しました。これは前年より、数百万人多くの人々が苦難を味わうことになったことを意味しています。このインデクスは、キリスト教徒が信仰のために最も深刻な影響を受けている50カ国を挙げています。北朝鮮は再びこの指標で1位を維持しています。同国は2021年に、アフガニスタンに短期間抜かれたのみで、2002年以来第1位を維持しています。北朝鮮について迫害度の高い順は、ソマリア、イエーメン、スーダン、エリトリア、シリア、ナイジェリア、パキスタン、リビア、イランと続きます。国家からの組織的な迫害と処刑に直面する状況で、クリスチャンたちは影響を受けています。どうぞ、お祈りください。

ムスリム世界のための30日の祈り

世界的レベルで、世界中のムスリムのために祈る運動が今年も行われています。欧米諸国はもちろん、日本語での「30日の手引き」書が発行されています。この「イスラム世界のための30日間の祈り」は、イスラム教の断食月ラマダンと並行して、2月18日から3月20日まで行われます。この祈りの運動は、1992年の祈禱会にさかのぼります。中東にいる宣教師たちは、イスラム世界のために具体的に祈ることを自分たちの使命として認識しました。同時に、彼らは自分たちの奉仕を通して、神はイスラム教徒を愛していることを明確に伝えたいと考えています。

「30日の祈り」編集部の発表によれば、ラマダン期間中、数百万人のイスラム教徒が神との近さを求めており、これは祈りが橋を架けることができる時期だと言います。今年の祈禱冊子では、かつてイスラム教徒だった人々が紹介されており、彼らは今日、キリスト教徒として家族や村、オンラインで信仰を分かち合っています。彼らは自らの命の危険を冒しながら、信仰の闘いの中にいます。祈禱冊子は毎日、物語、聖書の一節、具体的な祈りの課題を提供しています。家族向けには、子どもたちを祈りに参加させるための創造的なアイデアを含む、特別な子ども版も用意されています。大切なことは、ラマダンの終わりを、祈りの終わりにしてはいけないことです。どうぞ、覚えてください。



祈りの小冊子(独語版)

編集後記

- 春を感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。いつも「宣教の声」のために祈り、覚えてくださり御礼を申し上げます。今月も世界情勢をお伝えいたします。
- 世界情勢の混迷度は深まって来ました。米国の原子力科学者会報「終末時計」(1月27日発表)によれば、「残り85秒」だそうです。この数字は昨年より4秒進みました。心落ちつかない情報ですが、私たちはみことばを信頼し歩んで行きましょう。
- 何よりも、ウクライナ・ロシア戦争が速やかに終息しますように。またアフリカのスーダン、ナイジェリア、そして中東イラン、イスラエル等の混迷を覚えて、とりなしの祈りをお願いします。平安

